

地すべり学会東北支部「第10回総会」に参加して

村上信弘

地すべり学会東北支部による第10回総会
が、下記の内容で開催されました。

日時：平成6年5月20日

13:00~17:00

会場：仙台市戦災復興記念館

参加者：130名

講演：「山地防災の調査・計測における
最近の動向について」

アジア航測㈱ 今村遼平氏

討論会：「地すべり地の常時微動特性」

日本大学 森 芳信氏

「福島県滝沢地すべり」

福島県 斉藤志郎氏

日本工営㈱ 徳永 博氏

内容：今村氏の講演は、土砂災害の防災
として、OA機器の最新技術による
防災予知の確率についてでした。土
砂災害の三悪は、地すべり・崩壊・



土石流の三項目を挙げた。従来の地
すべりの予知解析は、航空写真の地
形判読・現地踏査による微細な動き
の確認・ボーリングによるすべり面
の確認など熟練技術者の判断に委託
されていた。現在の地すべりの予知
方法としては、最先端技術の導入に
より誰にでも予知できるようにする
ことであると力説されていました。
地すべりの予知法として、GISに
よるすべりの抽出・GPSとレー
ザー測距・AE法・感圧ケーブルな
どの方法が開発されている。特に、
GISの開発が進行すると自動的に
ダムサイトの決定も可能であると断
言されました。崩壊の予知方法は、
2値分類による危険地域の抽出・ビ
デオリモートセンシングによる法面



の点検・切土情報化施工が必要である。今、土砂災害に求められる「測定」のキーワードとして、非接触・小型・計量・自動・高精度・リアルタイムが挙げられる。これらをベースとした測定機器の開発により、山地防災技術が変革するであろうと述べていました。

討論会では、「東北地方における特色ある地すべりと防災技術」を主題として2編発表された。

森氏は、地震波の固有周期に着目し常時微動特性を計測に利用した地すべり調査の事例を発表されました。

齊藤・徳永両氏は、福島県滝坂地すべりの地すべり概要・すべり機構・対策工について発表されました。なお、滝坂地すべりは、平成6年10月下旬～11月上旬に現地検討会が予定されている。

懇親会：18時より、ホテルリッチ仙台において懇親会が開催されました。参加者70名。この会では、支部長盛合氏、講演者の今村氏・齊藤氏・徳永氏を囲み、20時まで盛大かつなごやかな雰囲気で行われた。

(榊光生エンジニアリング)

